

語句の用法と文のくぎり方

国語監修・執筆

幸田国広

■今回のポイント

- ① 「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」には注意が必要
- ② 慣用表現は間違えやすいので注意
- ③ 文章は句読点や符号を使って読みやすく

① 「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」には注意が必要

このふたつは現代日本語の乱れとして、よく指摘されるものです。公的な場や、改まった場面での使用は要注意です。

② 慣用表現は間違えやすいので注意

普段、使い慣れていない慣用句等にも注意が必要です。

③ 文章は句読点や符号を使って読みやすく

句点や読点があるので、文や文章は読みやすくなります。特に、読点は意味のまとまりを考えて、意識的に使うようにしましょう。

■今回の言語活動

句点や読点があるので、文や文章は読みやすくなります。特に、読点は意味のまとまりを考えて、意識的に使うようにしましょう。

■ら抜き言葉とさ入れ言葉

次の文には文法的な誤りが含まれています。修正してみましょう。

- その服は、もう着れなくなった。

「着る」のような動詞において「できる」「ことを表す助動詞は「れる」ではなく「られる」を使います。「着れる」ではなく「着られる」です。活用形をみたとときに、「きない」「きまず」「きる」「きるとき」「きれば」

「しろ」「きょう」と「い」段で語尾が変化する動詞の場合に「られる」の助動詞を使います。

- 所で、明日は休まさせていただきます。

「休む」のように「あ」段から「お」段まで語尾が変化する動詞では、「休まさせて」ではなく「休ませて」と「さ」は入れません。一方、「食べる」のように語尾が「あ」段から「お」段に変化しない動詞の場合には「食べさせて」と「さ」を入れます。

■ 慣用表現の誤り

次の語句の使い方の方の間違いをそれぞれ指摘し修正してみましょう。

- 耳障りのよハクラシック音楽を聴いてみる。

- 昨日から、頭痛が痛くてたまらない。

- 気のおける友と一緒に過ごす時間がいちばん幸せだ。

- あなたのことを忘れない日は一日もなかった。



■句読点の打ち方

次の文章を、句読点や符号（「」等）を使って読みやすくしてみましょう。

文豪夏目漱石は小説草枕で智に働けば角が立つ情に棹させば流される意地を通せば窮屈だとかくに人の世は住みにくいと人間関係の難しさを説いた情報化社会の現在私たちは新たな人付き合いの難しさに直面しているつながっていることの安心さと困難さつながっていたいと思いつながらそのバランスの取り方に悩む現代人がいる

※解答例を番組内で示していますので確認してみましょう。

■今回のまとめ

人に読まれて恥ずかしくない文章や、わかりやすい文章が書けるようになるためには、こうした語句の用い方に注意したり、句読点の打ち方を意識したりすることが重要です。基本中の基本ですから、日常生活のさまざまな場面で、今回学んだことを意識してみましょう。